

第74回卒業式挙行!



第74期生 66名の巣立ち

学校だより

和

第 34 号

三和中学校
発行 與島 康仁



答辞

卒業生代表 新里友唯

美しく咲いたマリーゴールドが、温かい春の日差しに包み込まれる三月。今日、私たちはこの学び舎を旅立ちます。振り返ると、三和中学校での時間は瞬間に過ぎていきました。

三年前、憧れの制服に身を包み、私は入学式を迎えました。初めて校門をくぐったとき、緊張と期待で胸がいっぱいだったことを今でもはっきりと覚えています。それぞれの小学校から集まってきた新しいクラスメイト。新しい机に新しい教室。目の前に広がるすべてが新鮮で輝いて見えました。

新しい仲間とさらに絆を深めた春の遠足。仲間と協力して作ったカレーは、少し失敗してしまっただけなのに、なぜかいつもよりおいしく感じました。

二年生に進級したのは休校中でした。休校が解除され登校できるようになった後も、新型コロナウイルスの影響は続きま

今までの生活スタイルとは大きく違う学校生活には、過ごしづらさを感じました。新しい生活様式に戸惑いを感じつつも二年生になった私たちには、先輩ができました。

「先輩」と呼ばれることに浮かれているのもつかの間、その言葉がともなっている責任も感じました。部活動や委員会だけでなく、日々の学校生活でも「頼れるかっこいい先輩」を目指して張り切っていたのを思い出します。

最上級生として先輩を引っ張ってきた三年生。十一月には、修学旅行がありました。新型コロナウイルスの影響は今年も続いていきましたが、先生方や保護者の方々の協力のおかげで、県内一泊二日の修学旅行ができました。

世界遺産「今帰仁城跡」の見学、海に落ちそうになってハラハラしたサバニ体験、笑いが絶えなかった演芸大会……短い時間でしたが、大切な仲間と一生の思い出を作ることができました。

三年間、ずっと頑張ってきた部活動。運動は少し苦手でしたが、ハキハキしていたのもかっこいい先輩達方に憧れてソフトボール部に入部しました。練習についていけない不安でしたが、チームの皆と切磋琢磨しながら必死に頑張りました。先輩方が引退し、二年生の間は部員が八人にまで減りました。ここでも新型コロナウイルスの影響で、思うように練習ができない日々が続きました。

した。久しぶりの試合では負けが続く、「キャチャーである自分の力不足で皆の足を引っ張っているのではないか」と思うことが何度もあり、そのたびに逃げ出しそうになりました。しかし、チームの皆がいつも明るく励ましてくれたので、頑張ろうと思うことができました。このチームだから私は最後まで頑張れたし、最高の思い出を作ることができたと思います。

七十四期生の皆さん、この三年間はどうか。三年間、本当にいろいろなことがありましたね。マスクをはずして顔を見ながら笑い合う、そんな当たり前のことが当たり前ではなくなり、会うことさえも難しくなる状況が続きました。そんな状況でも、私は皆さんと出会えたことでこの三年間が素晴らしい宝物になりました。私はこの七十四期であることを誇りに思っています。思えばこの三年間は、多くの方々の支えがありました。

ときには厳しく愛情いっぱい先生方のおかげで、学習面だけでなく、精神面でも大きく成長することができました。三年間、ありがとうございます。

いつも一番近くで見守っていてくれたお父さん、お母さん。中学生になり毎日の送迎をはじめ、たくさん苦労をかけた。感謝の気持ちを素直に伝えることは難しかった

けれど、言葉にできないほど感謝しています。今までありがとうございました。これからもよろしく願います。いつも素直に私たちに伝えてくれた在校生の皆さん。皆さんと過ごした日々は私たちにとってかけがえない思い出となりました。これからは皆さん三和中を引っ張っていく番です。中学生という残された時間を悔いのないものにしてください。

今日、こんなにも素晴らしい卒業式にしてください。先生方、在校生の皆さん。お忙しい中足を運んでくださった来賓の皆様、そして保護者の皆様。本当にありがとうございました。

「All our dreams can come true, if we have the courage to pursue them. 夢を追い求める勇氣さえあれば、全ての夢は実現できる。」これは、ウォルト・ディズニの言葉です。

私達は、今日から一人一人それぞれの道に踏み出します。今後、大きな壁にぶつかったとしても、この三和中学校で学んだことを胸に、夢へ向かって強く生きていきます。

卒業生を代表して、ここでもう一度心から感謝の気持ちを申し上げて答辞の結びとしたいと思います。

私たちに素敵な時間や経験、そして素晴らしい出会いをありがとうございました。

令和四年三月十二日